

株主の皆様へ

株主メモ

■ 決算期	3月31日
■ 定時株主総会	6月開催
■ 基準日	定時株主総会・期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 その他必要あるときは、予め公告して定めます。
■ 単元株式数	1,000株
■ 株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
■ 同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
■ 取次所および お問合せ先	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店(トラストオフィスを除く) みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店(プラネットブースを除く) ※株式会社関係のお手続き用紙のご請求は、次のみずほ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。 ・電話 0120-288-324(フリーダイヤル) ・インターネット http://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/
■ 公告方法	電子公告 ※当社ホームページをご覧ください。 http://www.yodoko.co.jp/

単元未満株式買取請求および買増請求

単元未満株式(1株から999株の株式)の買取請求および買増請求は、上記の事務取扱場所・取次所において受付けております。なお、買増請求につきましては3月31日および9月30日のそれぞれ12営業日前から当該日までの期間お取扱いを停止いたします。その他、会社が定める一定期間買増請求のお取扱いを停止する場合がございます。

配当金受領方法のお知らせ

配当金領収証でお受取りの株主様には、より安全・確実な銀行またはゆうちょ銀行(郵便局)の預貯金口座へのお振込みによる受領方法がご利用できますので、是非ともご検討ください。なお、受領方法の変更を希望される株主様は、上記の事務取扱場所・取次所までお問い合わせください。

スチール! & アイデア!
ヨドコウ

〒541-0054 大阪市中央区南本町四丁目1番1号
TEL. (06) 6245-1111 (大代表)
<http://www.yodoko.co.jp/>

第109期 中間事業の ご報告

平成19年4月1日～平成19年9月30日

YODOGAWA STEEL WORKS

Steel sheet / Building material / Roll / Grating

株式会社 淀川製鋼所

証券コード5451

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、
ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
当社の第109期中間期(平成19年4月1日から
平成19年9月30日まで)が終了いたしましたので、
営業の概況につきましてご報告申し上げます。

平成19年12月

当中間期のわが国経済は、中国をはじめアジアや
ユーロ圏を主体とする世界市場の拡大および円安
を背景として輸出が堅調に推移し、緩やかに戦後最
長の拡大を継続してまいりました。ただし、わが国
経済全体としての回復基調は未だ損なわれており
ませんが、個人消費の停滞や設備投資の一時的な
減少により実質国内総生産が伸び悩んでいることや、
サブプライムローン問題に起因する欧米金融市場
の不安定化および原油価格の高騰等による景気
の下振れリスク等が懸念され、先行き予断を許さない
状況にあります。



代表取締役社長

國保善次

鉄鋼業界におきましては、引続き国内外で好調に
推移する鋼材需要により、当上半期の粗鋼生産量
は前年同期比3.0%増の5,980万トンとなり、年
度上半期としては過去2番目の高水準となりました。
世界全体の鉄鋼需要は、新興国を主体に依然とし
て底堅く推移しており、国内の需要についても製造
業向けを中心に昨年来堅調な推移を見せており
ます。しかし、一方では本年6月施行の改正建築基
準法による建築確認の厳格化に伴い建築工事の停
滞が発生しております。

連結子会社があります台湾経済は、電子部品や金
属製品を中心とした輸出が引続き堅調で、内需も
半導体関連の設備投資が増加し、個人消費も持ち
直してきていることもあり、2007年1～6月の実
質GDPは前年同期比5.0%増となりました。

台湾鉄鋼業界におきましては、米国向け輸出が大
幅に減少したにもかかわらず、東南アジア向け等
の増加により前年実績を上回る輸出量を確保して
おります。

このような状況のもとで、当社は昨年度下半期に
亜鉛エキストラ制度を導入したことに伴い、亜鉛め
っき鋼板等の販売価格の改定が着実に浸透してまい
りました。しかし、昨年度来実施しております国内の
紐付きユーザーへの拡販策や輸出の拡大等による
需要の掘り起こしが進展しつつある中で、改正建築
基準法の施行に伴う建築工事の停滞により、建材製
品の売り上げは伸び悩みました。また、鋼板製品の
副原材料(亜鉛・アルミ)の購入価格は依然として
高止まりしている中、原油価格の高騰を受けた各種
副原材料・資材の価格の上昇が、大きな収益の圧迫
要因となっております。

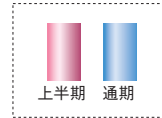
当社グループの連結業績に影響の大きい台湾の
センユースチール社におきましては、輸出販路拡大
を目的として新たな市場開拓を行い、今後の営業
活動に結びつく成果を上げ、売上高は前年同期比
2桁の増収となりました。しかし、利益面では主原
料であるホットコイル、副原材料(亜鉛)の価格上昇
の影響を受け減益となりました。

以上の結果、売上高は1,011億39百万円(前年
同期比12.7%増)、営業利益は61億91百万円(同
9.8%増)、経常利益は72億64百万円(同3.4%増)
となり、中間期の純利益は税負担の減少もあり37
億29百万円(同22.2%増)と増収増益となりまし
た。

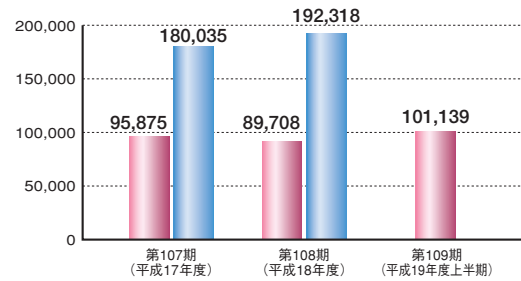
なお、当中間配当金は、当期の当社予想利益水準
および前期配当金実績を勘案いたしまして、1株当
たり6円とし、12月3日よりお支払することといた
します。

株主の皆様には、今後とも一層のご支援とご指導
を賜りますようお願い申し上げます。

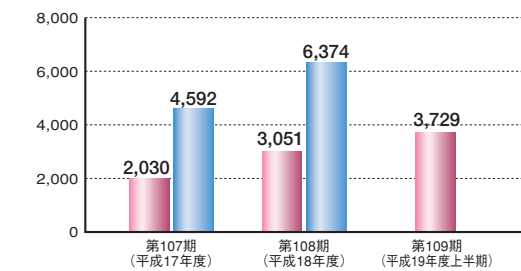
オンリーワンを生む
最前線へ



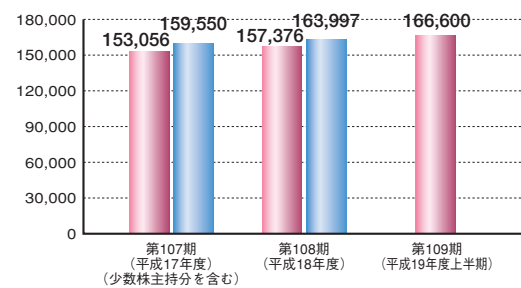
売上高 (単位:百万円)



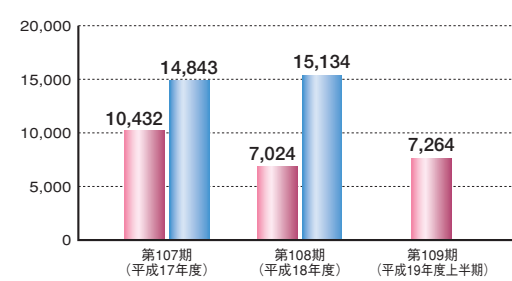
当期純利益 (単位:百万円)



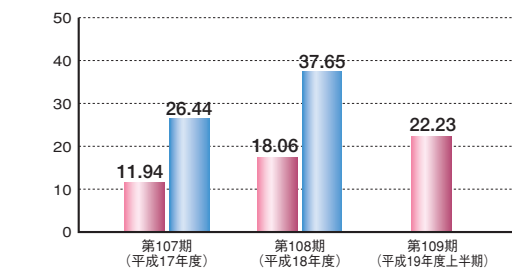
純資産 (単位:百万円)



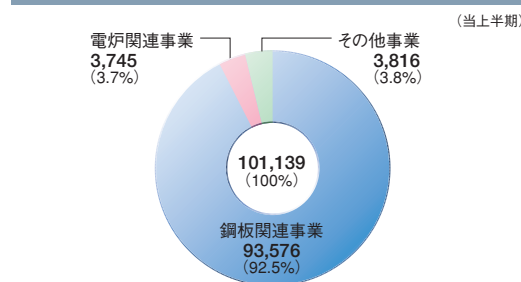
経常利益 (単位:百万円)



1株当たりの当期純利益 (単位:円)



当期セグメント別売上高構成比 (単位:百万円)



上席執行役員
ロール販売本部長
兼東京支社長

大森 真

鉄鋼用ロール、製紙用ロール

ともに需要が拡大。

ロール技術は、さらに進化中。

昭和23年に鉄鋼用ロールの製造からスタートしたロール部門。以来、高性能を誇るヨドコロールは、高品質な鉄や紙、ビニール、ゴムなどを製造する上で必要不可欠なアイテムとして、世界のさまざまな分野のトップ企業で採用されており、ヨドコウはロール分野で日本屈指のメーカーとして知られている。

ヨドコウのロール部門は現在、1.鉄鋼用ロール、2.製紙用ロールおよびそのシステムを2本柱に事業を展開。同部門の現状、今後の展望について、大森 真 上席執行役員ロール販売本部長に話を聞いた。

日本屈指のロールメーカー ヨドコウ

— ロールとはどのようなものか？

金属製の「麺棒」をイメージしていただければわかりやすいと思います。鉄や紙、ビニール、ゴムなどをロールで伸ばし、目的の製品をつくっていくために使用するものです。実際にはロールにはいくつもの種類があり、製造する製品の種類や内容によってロールの種類を選択しなくてはなりません。



厚板用ロール

ヨドコウはこのロール分野で、日本屈指のメーカーとして知られています。

— どのようなロールを製造しているのか？

ヨドコウは世界最大級の遠心鋳造設備により、最大重量70トン、直径1.8m、全長12mまでの多様なロールを製造・販売しています。これらのロールは、鉄鋼用と非金属用に大別されます。

鉄鋼用ロールは、主に鋼板の厚みの調整や成形のためのもの。非金属用ロールは、紙やゴム、ビニールの厚みの調整や光沢を出すために使用されます。また多彩なロールを製造・販売すると同時に、40年以上も前からドイツ・アンドリツクス社と技術提携し、製紙設備の製造も実施。製紙用カレンダーロール（艶出し用仕上げロール）では80%以上のシェアを占めています。



厚板ワークロール

能力の100%以上対応で生産中、数年先まで生産予定が決定。

— 鉄鋼用ロール事業の現状は？

鉄鋼用ロールは厚板および薄板の鋼板圧延用ロールが主体です。とりわけ厚板ワークロールは世界的な厚板需給逼迫で、需要拡大が続いてい

ます。ヨドコウでは現在、能力の100%以上のフル生産対応となっており、数年先まで予定が埋まっているという状況です。高炉各社には早めの発注あるいは中長期的な需要予測を出していただくよう、お願いをしています。工場は足元残業対応などフル稼働状態で、大型ロールを中心とした納期に追われています。

長尺ロールを生産できるのは

ヨドコウ他、世界でも僅かな企業だけ。

— ヨドコウ鉄鋼用ロール事業のコアコンピタンスは？

当社の最大の強みは、先にもご紹介いたしました世界最大級の遠心鋳造設備を活用することで、世界最大級の厚板ミル用ワークロールに対応できることです。現在、中国や韓国では面長5mを超える厚板ミルが相次いで立ち上がりつつあり、建設計画も順次明らかになってきています。これらに対応出来る長尺ロールを製造出来るメーカーは、ヨドコウ以外には世界でも数社しかありません。

海外においてもヨドコウの厚板用ワークロールは、熱延用ワークロールと共に品質面で高評価をいただいております。無論、さらに品質・納期管理に注力してまいりたいと考えています。

活発化する大型設備投資
時流に沿いながら受注を拡大。

— 製紙用ロール及びシステム市場の現状は？

国内大手製紙会社4社の大型設備投資が活発になってきています。これは、国内で高級紙の需要拡大が続いていることや、各社が輸出を本格化して世界企業へ変わろうとしていることなどに起因しています。

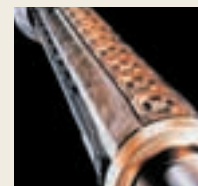
輸出ということでは、中国市場で紙の需要が急速に増加しており、注目が集まっています。

このような流れに沿うかたちで、現在ヨドコウにおいても大型設備を受注しているところです。

カレンダーロールの業界トップとして
これからもビジネスを推進。

— 製紙用ロール・システムの主力商品は？

少々専門的な話になりますがご容赦ください。紙のなめらかさや光沢を左右するのは紙がロールとロールを通過する回数によりですが、従来は何段もロールを積み上げたスーパーカレンダー^①という設備が使用されて



代表的な製紙用ロール「ハイドロバリオロール」の内部



つや出し設備（高温ソフトカレンダー4基設置）

いたところを、現在はロールに温度を与える事により、少ない段数で、さらに、コンピューター制御によってロール表面の任意の部分を変化させ、紙製品の幅方向の厚みをコントロールする「マルチハイドロバリオロール」が新技術となっています。そしてそのロールを使ったMOLカレンダー設備を販売展開しています。これにより、紙表面の安定と良好な印刷適性を得ることが出来ます。現在はさらにこれを推し進めた多段式ソフトカレンダー^②「プロソフト」装置のハード・ソフトを国産化し、システムとして営業展開しています。

— 「プロソフト」システムのメリットは？

「プロソフト」によるシステム^③は、従来オフマシンであったものを製紙ラインと一体化したオンマシンで使用することにより、紙製品の品質改善だけでなく、作業工程減少による人件費

削減等の製造コストダウン、歩留向上に貢献しています。更にエネルギーロスの軽減により環境問題にも対応しています。

これらのことから「プロソフト」は次代の製紙用設備として大きな期待をもっているところです。

一層の存在感を構築できるよう
製販一体となって施策を実行

— ロール部門全体の今後の方向性は？

既に申しあげましたように、現在鉄鋼用ロールは生産が需要に追いつかない状況ですし製紙向け大型物件を受注し、極めて忙しい状態が続いています。しかし、我々としては如何なる環境下でも安定的に収益が上げられるように、改善・改革を不断なく実行していくつもりです。さらなる品質の追求は勿論のこと、万全なアフターサービス体制など、製造部門販売部門が一体となってレベルアップし長い間培ってきた信頼関係を強固なものにし、お客様の期待に応えていきたいと考えています。ヨドコウの中でも特色ある事業ですし、より一層存在感のある部門を目指してまいります。



ロールの基礎知識

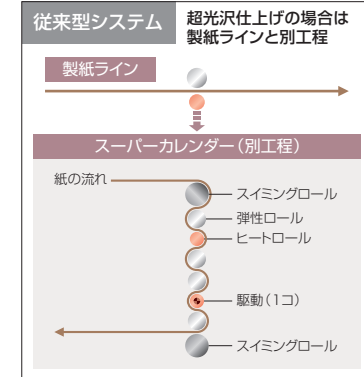
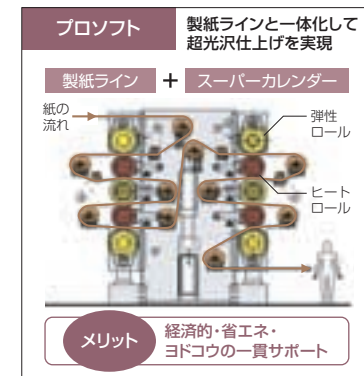
①スーパーカレンダー

より高光沢な紙づくりのために誕生した技術。弾性ロールが消耗しやすく、オフマシンのため生産効率が良くない。

②ソフトカレンダー

紙の厚みだけでなく、紙表面の平滑・光沢のより均一な製品を実現できる。印刷適正の向上を図ったオンマシンシステム。

③プロソフトを使用したオンマシンシステム



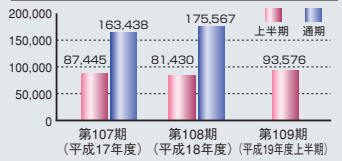
事業概要

鋼板関連事業

主な製品

冷延鋼板、磨帯鋼、カラー鋼板、ガルバリウム鋼板ほかの表面処理鋼板、建築材料（屋根材、壁材など）、建設工事の設計および施工、エクステリア商品（物置、ガレージ、カーポートなど）、景観商品（シェルター、ゴミ収集庫、玄米冷蔵庫など）

売上高推移（百万円）



国内向けカラー鋼板は、前年下期の好調な建築需要も今期に入り伸び悩み、更に改正建築基準法の施行の影響もあり、国内店売分野ではこれらの市場悪化の影響を受け減収となりました。しかし、紐付の電機、建材向けおよび海外ユーザーへの拡販でカバー、最終的にカラー鋼板は前年同期比で増収、めっき鋼板他と併せた鋼板部門の売上高は前年同期比で2桁の伸びとなりました。

新商品では、国内の店売分野を中心に業界初のクロムフリーカラー鋼板（スーパーバリアカラー、ハイブリッドカラー）の販売に着手、また海外展開ではタイのPPT社に家電向PCMの生産設備として、粉体塗装ラインを新設し当下期から稼働に入ります。

カラー鋼板は前年同期比で増収 業界初のクロムフリーカラー鋼板の販売にも着手

不燃パネル
バリアロック
(施工例)



扉下レールをなくして...
ドラマチックにスムーズな扉の完成です。 **業界初**



ヨド物置「エルモ」

下レールがないので、ゴミ詰まり、砂詰まりの心配がありません。又、寒冷地での凍上対策としても効果バツグンです。静かでスムーズな動きのベアリング新戸車と合わせ、上り扉の利点を更に進化させました。

改正建築基準法の施行を境に、建築需要が大幅に減少、また他社との価格競争もさらに激化、前期に比べ厳しい環境となりました。屋根材「ルーフ」は工事部門を含めて引合い件数が減少、壁材「不燃パネル・バリアロック」は流通店舗等の広域店での採用もあり前年同期比で増収。扉下レールを無くしたタイプの「ヨド物置エルモ」は、業界初の商品で売上は順調に推移、前年同期（旧タイプ）比で増収。「倉庫」「ガレージ」等の大型商品は確認申請許可の遅れの影響が出ております。

改正建築基準法に絡んだ商品問合せも多く、今後は構造計算書類の整備、全国ネットのサービス網に基づく迅速な対応など当社の強みを活かして、拡販に努めます。

鋼板業務

建材業務

鋼板関連事業

スチール! & アイデア!
ヨドコウ

その他の事業

電炉関連事業

ロール業務

鉄鋼業界向けのロールは、世界規模の鋼材生産拡大を受け国内外を問わずロール需要が増加、当社主力商品の厚板用大型ロール、薄板用中型ロールを中心にフル稼働の状況。一方、需要増による原材料の価格高騰の影響を受け、採算面では厳しく、販売価格の改定に注力いたします。

製紙業界向けのロールおよび設備は、現在、大型の設備物件2件を受注しております。

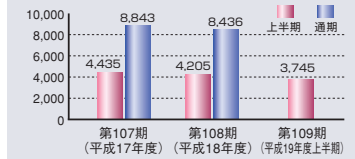
今後も、当社の最先端の技術を取り入れた設備およびシステムを販売すべく、受注活動に努めます。

電炉関連事業

主な製品

鉄鋼用ロール、製紙用ロールなど、グレーチング

売上高推移（百万円）



国内外を問わずロール需要が増加 越流抑制グレーチング「ウォーターフォールズ」の拡販に注力

製造部門での徹底した合理化や販売部門での価格改定により収益改善の効果はでつつあるものの、公共事業の縮減と市場における与信不安、原材料の度重なる値上げ、他社との受注競争の激化など、取り巻く環境は相変わらず厳しい状況です。

今後も、オンリーワンの越流抑制商品「ウォーターフォールズ」、開閉操作力の軽減に優れた「かるがるグレーチング」の拡販に努めます。

越流抑制商品
「ウォーター
フォールズ」



グレーチング業務

その他業務

その他事業のエンジニアリング業務につきましては、国内では、成型ラインの移設工事、電気制御装置の更新工事および修繕工事を行い、また、海外では、納入した設備の予備品の販売をいたしました。

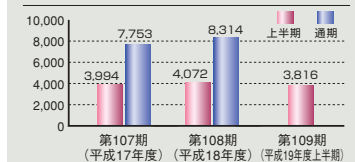
また、ビル賃貸による収入は好調に推移し、安定した収入源となっております。

その他の事業

主な製品

機械プラント、ビル賃貸、ゴルフ場経営、駐車場経営、倉庫業、運送業

売上高推移（百万円）



連結決算の概要

貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当中間期 平成19年9月30日	前期 平成19年3月31日	科目	当中間期 平成19年9月30日	前期 平成19年3月31日
【資産の部】			【負債の部】		
流動資産	117,104	111,312	流動負債	42,032	41,681
現金及び預金	13,237	13,270	支払手形及び買掛金	18,268	19,688
受取手形及び売掛金	42,665	45,383	短期借入金	3,613	1,043
有価証券	13,315	10,688	その他	20,150	20,949
棚卸資産	40,403	36,233	固定負債	22,178	23,853
その他	7,846	6,102	退職給付引当金	7,502	7,749
貸倒引当金	△363	△366	役員退職引当金	59	77
固定資産	113,707	118,219	その他	14,615	16,025
有形固定資産	59,488	61,652	負債合計	64,211	65,534
建物及び構築物	18,349	18,831			
機械装置及び運搬具	19,669	20,659	【純資産の部】		
土地	19,011	19,805	株主資本	133,856	129,925
その他	2,458	2,355	資本金	23,220	23,220
無形固定資産	439	446	資本剰余金	23,788	23,546
投資その他の資産	53,779	56,120	利益剰余金	92,128	89,392
投資有価証券	50,605	53,194	自己株式	△5,282	△6,234
その他	3,231	2,987	評価・換算差額等	16,716	17,610
貸倒引当金	△57	△60	その他有価証券評価差額金	15,913	17,036
			土地再評価差額金	1,422	1,642
			為替換算調整勘定	△618	△1,068
			新株予約権	48	25
			少数株主持分	15,979	16,435
			純資産合計	166,600	163,997
資産合計	230,812	229,531	負債及び純資産合計	230,812	229,531

損益計算書

(単位:百万円)

科目	当中間期 平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで	前中間期 平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで
売上高	101,139	89,708
売上原価	86,507	75,823
売上総利益	14,632	13,885
販売費及び一般管理費	8,440	8,244
営業利益	6,191	5,640
営業外収益	1,478	1,588
営業外費用	405	204
経常利益	7,264	7,024
特別利益	34	18
特別損失	708	202
税金等調整前中間純利益	6,591	6,841
法人税、住民税及び事業税	1,673	2,196
法人税等調整額	260	544
少数株主利益	928	1,048
中間純利益	3,729	3,051

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当中間期 平成19年4月1日から 平成19年9月30日まで	前中間期 平成18年4月1日から 平成18年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,747	1,848
投資活動によるキャッシュ・フロー	△819	△2,920
財務活動によるキャッシュ・フロー	744	△339
現金及び現金同等物に係る換算差額	42	△8
現金及び現金同等物の増減額	2,715	△1,419
現金及び現金同等物の期首残高	20,199	16,186
現金及び現金同等物の中間期末残高	22,915	14,766

株主資本等変動計算書

平成19年4月1日～平成19年9月30日

(単位:百万円)

科目	株主資本					評価・換算差額等				新株 予約権	少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己 株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計			
平成19年3月31日残高	23,220	23,546	89,392	△6,234	129,925	17,036	1,642	△1,068	17,610	25	16,435	163,997
中間連結会計期間中の変動額												
剰余金の配当			△1,172		△1,172							△1,172
利益処分による役員賞与金等			△40		△40							△40
中間純利益			3,729		3,729							3,729
自己株式の取得				△23	△23							△23
自己株式の処分		241		975	1,217							1,217
土地再評価差額金の取崩額			219		219							219
株主資本以外の項目の中間連結 会計期間中の変動額(純額)						△1,123	△219	449	△893	23	△456	△1,326
中間連結会計期間中の変動額合計		241	2,736	952	3,930	△1,123	△219	449	△893	23	△456	2,603
平成19年9月30日残高	23,220	23,788	92,128	△5,282	133,856	15,913	1,422	△618	16,716	48	15,979	166,600

決算の概要

貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当中間期	前 期	科目	当中間期	前 期
	平成19年9月30日	平成19年3月31日		平成19年9月30日	平成19年3月31日
【資産の部】			【負債の部】		
流動資産	92,344	88,108	流動負債	35,248	33,020
現金及び預金	9,243	9,324	支払手形及び買掛金	14,389	15,601
受取手形及び売掛金	35,301	37,375	そ の 他	20,858	17,418
有 価 証 券	12,488	10,688	固定負債	14,962	15,346
棚 卸 資 産	28,152	23,798	退職給付引当金	4,633	4,993
そ の 他	7,163	6,924	そ の 他	10,328	10,353
貸倒引当金	△3	△4	負債合計	50,211	48,367
固定資産	98,052	98,020			
有形固定資産	35,754	33,131			
建物及び構築物	11,522	12,260	【純資産の部】		
機械装置及び運搬具	9,580	10,279	株主資本	124,463	120,955
土 地	12,905	9,018	資 本 金	23,220	23,220
そ の 他	1,746	1,573	資本剰余金	23,740	23,498
無形固定資産	252	256	利益剰余金	84,080	81,767
投資その他の資産	62,045	64,632	自 己 株 式	△6,578	△7,532
投資有価証券	45,128	47,838	評価・換算差額等	15,673	16,781
関係会社株式	15,607	15,607	その他有価証券評価差額金	15,673	16,781
そ の 他	1,309	1,186	新株予約権	48	25
貸倒引当金	△0	△0	純資産合計	140,185	137,761
資 産 合 計	190,396	186,128	負債及び純資産合計	190,396	186,128

損益計算書

(単位:百万円)

科目	当中間期	前中間期
	平成19年4月1日から平成19年9月30日まで	平成18年4月1日から平成18年9月30日まで
売 上 高	57,642	55,148
売 上 原 価	47,830	45,991
売 上 総 利 益	9,811	9,156
販売費及び一般管理費	6,228	6,319
営 業 利 益	3,583	2,837
営 業 外 収 益	3,022	2,505
営 業 外 費 用	204	113
経 常 利 益	6,401	5,229
特 別 利 益	307	1
特 別 損 失	626	134
税引前中間純利益	6,082	5,096
法人税、住民税及び事業税	1,025	1,606
法人税等調整額	1,564	1,863
中 間 純 利 益	3,493	1,626

株式の概要

[平成19年9月30日現在]

株式の状況

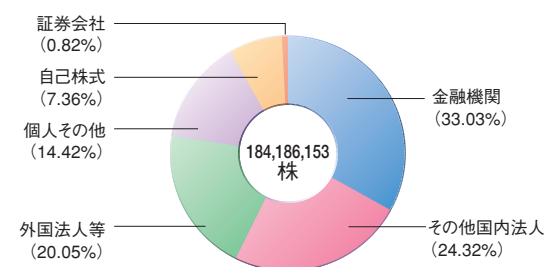
発行する株式の総数 753,814,067株
 発行済株式の総数 184,186,153株
 株 主 数 9,718名

大株主 (上位7名)

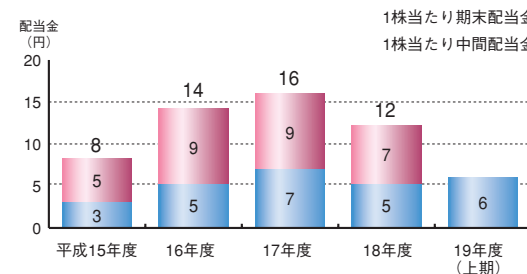
株 主 名	持株数(千株)	出資比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	6,752	3.66
バンク オブ ニューヨーク ジーシーエム クライアント アカ운 ト ジェイビーアールデイ アイエスジー エフイー - エイシー	5,525	2.99
みずほ信託銀行株式会社	5,470	2.96
株式会社りそな銀行	5,342	2.90
株式会社みずほコーポレート銀行	5,310	2.88
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,220	2.83
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー-505019	4,955	2.69

(注)当社は、自己株式13,553千株を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

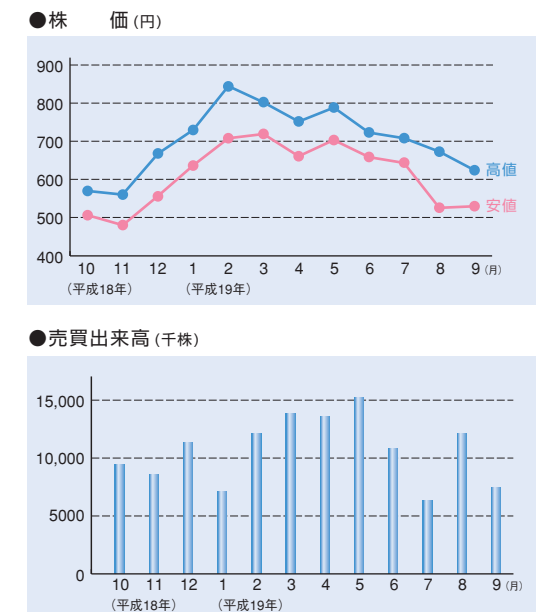
所有者別株式分布状況



1株当たり配当金推移



株価・株式売買高の推移 (東京証券取引所)



当社の概要

社名	株式会社淀川製鋼所
設立	昭和10年1月30日
資本金	23,220,815,228円
従業員数	1,340名

当社の主な事業所

本社	〒541-0054 大阪市中央区南本町四丁目1番1号 06-6245-1111
支社	〒104-0041 東京都中央区新富一丁目3番7号 03-3551-1171
営業所	札幌、盛岡、仙台統括、新潟、長野、高崎 東京統括、横浜、静岡、北陸、名古屋統括 大阪統括、神戸、岡山、福山、広島 高松統括、高知、八幡、福岡統括、鹿児島
工場	大阪(大阪府)、呉(広島県) 市川(千葉県)、福井(福井県) 泉大津(大阪府)

当社の主な関係会社

●連結子会社	
高田鋼材工業株式会社	鋼板の加工および販売
盛餘股份有限公司 (セニュースチール社)	鉄鋼製品の製造および販売
白洋産業株式会社	鉄鋼卸業、運送業
京葉鐵鋼埠頭株式会社	倉庫業
ヨドコウ興発株式会社	ゴルフ場等経営および不動産賃貸
●持分法適用関連会社	
株式会社佐渡島	鉄鋼卸業

当社の役員

取締役	執行役員
代表取締役社長	國保 善次
代表取締役	専務執行役員 重廣 紀義
取締役	常務執行役員 寺田 剛尚
取締役	常務執行役員 辻 克己
取締役	坂元 良章
	上席執行役員 大森 眞
	上席執行役員 遠山 巽
	上席執行役員 阪口 修司
	上席執行役員 大森 豊実
	上席執行役員 西村 修
	上席執行役員 河本 隆明
	執行役員 向井 信正
	執行役員 澤田 滋

※坂元良章氏は会社法に定める社外取締役です。

監査役

常勤監査役	今村 靖雄
常勤監査役	天谷 薫
監査役	川西 淳一郎
監査役	今西 康訓

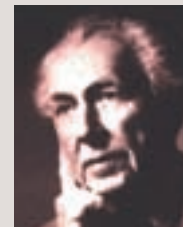
※川西淳一郎および今西康訓の両氏は会社法に定める社外監査役です。

重要文化財

ヨドコウ迎賓館のご案内

旧山邑家住宅

F.L.ライトとヨドコウ迎賓館



設計者/フランク・ロイド・ライト

淀川製鋼所が保有し、管理を行う国の重要文化財、ヨドコウ迎賓館は、20世紀のアメリカが生んだ建築の巨匠であり、帝国ホテルの設計者として日本でも名高いフランク・ロイド・ライト(Frank Lloyd Wright, 1867-1959)によるものです。1918年に、F.L.ライトが灘の酒造家8代目 山邑太左衛門の依頼を受け、別邸として設計し、1924年に彼の弟子である遠藤 新(えんどう あらた)、南 信(みなみ まこと)らによって建設されました。淀川製鋼所ではこの希有な歴史的建築物を有料で一般公開しておりますが、株主様に限り、期間限定で入館料を無料とさせていただきます。ご関心のある方は、ぜひ一度足をお運び下さい。



2階応接室

雛人形の逸品を展示

京都の老舗人形店「丸平」三代目大木平蔵が明治33年から2年間の歳月をかけて制作した29体の人形たち。優雅な顔立ち、豪華な衣装、細部にこだわった調度品などが、100年以上の歳月を経た今も、時代を超えた美しさを備えています。



特別展示開催

平成20年2月9日(土)~4月6日(日)
人形展開催期間中/月・木のみ休館

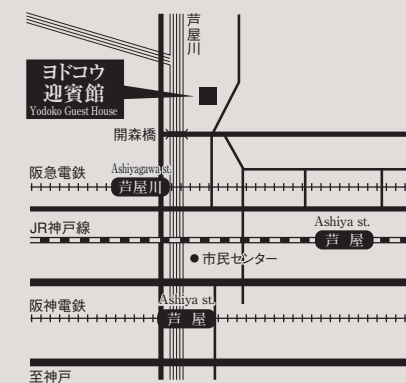
所在地 芦屋市山手町3-10
所有者 (株)淀川製鋼所
設計者 フランク・ロイド・ライト(1867~1959)
構造 鉄筋コンクリート造
規模 敷地面積 4,700m² 建築面積 359.1m²
竣工年 大正13年(1924)
備考 昭和49年国指定重要文化財

開館ご案内

開館日 毎土・日・水曜日と祝日
開館時間 10時~16時(入館は15時30分まで)
入館料 大人・大学生は500円 団体/400円(30名以上)
小・中・高校生/200円 団体/100円(30名以上)

申し込み・問い合わせ

淀川製鋼所 広報課 06-6245-9103
ヨドコウ迎賓館 0797-38-1720
URL <http://www.yodoko.co.jp/geihinkan/>



■阪急芦屋川駅下車北へ徒歩10分

『ヨドコウ迎賓館』株主様入館無料券

本券1枚につき、3名様まで無料でご入館いただけます。

平成20年6月末日まで有効